

平成26年7月21日(月)

老球の細道38

ミーティングの重要性

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

【俺は今日この舞台にいられることを誇りに思う

今日この日のために

みんながどれだけの想いでやってきたかを知っているからな

それを日本で待っている家族も同じ気持ちだと思う

俺たちはやるだけのことをやってきた

ここまでは完璧、100点だよ

でも最後の宿題がある

俺たちが今日この舞台に立つことは生まれる前から決まっていた

そして俺たちが世界一になることも決めていたんだ

魂の底から力を出し切れ、そして何があっても前に出るぞ

ニッポンの底力を見せつける時だ

ぶちかませ！】

【今日は暑いから足をつらないように水分を十分にとって後半頑張ってゆこう！】

先に紹介した文章は『ペップトーク』（中央経済社）と言う本に書いてあるラフティングという特殊ゴムボートで激流を下る競技の日本代表監督の試合を前にしたペップトークである。ペップトークというのは、簡単に言うと元気づけるための「励ましの言葉」だ。

後の文章は、先日福島で開催されたバスケットボール県総合体育大会における某チームのハーフタイムにおけるコーチのお話である。エライ違いだ。このような校内球技大会における熱中症予防のアドバイスしか与えられないのだろうか。それとも、いつもこんなアドバイスなのか。バスケットボールの戦いにしてはあまりにも寂しいコーチの指示だった。

私は現役コーチの時にこだわったことの一つにミーティングがある。日々の練習の始まりと終わり、試合前の始まりとハーフタイム、そして試合終了後と、静かな場所を探してとにかく色々なことをしゃべりまくった。聞いていなかったり、眠そうな顔をしている選手もいたが求める生徒達の方が多かったのも、聞く気のない選手たちは無視して話続けた。ミーティングの話題を準備するのも大変だったが、これもまた楽しみの一つだった。なぜなら、話をするための準備によって私自身も勉強になったからである。

アメリカの大学バスケットボールの試合前やハーフタイムでのロッカールームでのミーティングは有名である。選手が支度を終わるとコーチが現れスピーチが始まる。スピーチが進むにつれ、みるみるうちに選手の目つきや表情が変わってくる。闘志がみなぎり、まさに命がけで戦いに挑む戦士の面構えになってくる。凄いなんの！

「今日も怪我しないように声を出してがんばろう！」なんていうミーティングのスピーチなんかソク食らえだ。コーチは言葉で選手を変えていく仕事である。名コーチには名セリフが似合う。選手の琴線に触れるたくさんの言葉、話材を持たなければならない。本を読むこと、映画の名セリフを覚えること、落語や漫才をきくことなど、探せば色々ある。

「遊び人」のたしなみは「飲む」、「打つ」、「買う」だそうである。バスケットボールのコーチは「読む」、「書く」、「話す」としたいものである。